



「防災の日」「防災週間」の機会に防災意識の高揚を!

国では、広く国民が、台風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波等の災害についての認識を深めるとともに、これに対する備えを充実強化することにより、災害の未然防止と被害の軽減に資するため、9月1日を「防災の日」及び8月30日から9月5日までを「防災週間」と定めています。

宮城県では、1978年6月12日の宮城県沖地震で、多大な被害が発生し、今後起こりうる大規模災害に備えるため、毎年6月12日を「みやぎ県民防災の日」と定めています。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災では、津波をはじめ甚大な被害を受け、多くの尊い命が失われたことから、犠牲者に対する追悼の意を表し、記憶を風化させることなく後世に伝え、東日本大震災からの復興を誓う日として、毎年3月11日を「みやぎ鎮魂の日」と定めています。

各学校では、「みやぎ県民防災の日」に合わせ、多くの学校で避難訓練が実施され、また、「みやぎ鎮魂の日」だけでなく、毎月11日には、東日本大震災の教訓等を学ぶ防災の学習やショート避難訓練を実施する取り組みが増えてきました。

9月1日の「防災の日」は、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災に由来しています。この震災は、地域によっては震度6弱以上を記録するほどの大きさで、およそ、10万人以上の方々が犠牲になったと言われています。

昨今は、地震や津波だけでなく、大雨による洪水や土砂災害など甚大な被害が全国で起こっています。「防災の日」及び「防災週間」の機会に、短時間でも、災害から身を守るための学習などを行い、児童生徒等の防災意識を高める取り組みを行っててください。

現在は、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、8月27日から宮城県にも「緊急事態宣言」が発令され、活動を伴う防災の取組も制限しなければならない状況にありますが、防災教育副読本「未来への絆」を活用するなど、授業だけでなく、学活やショートホームルームの時間などで防災学習を行い、コロナ禍でも、いかなる災害からも命を守る防災意識の高揚につながるよう努めてほしいと願っています。



みやぎ防災教育副読本「未来への絆」Webページの活用

掲載 URL → <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hotai/fukudokuhon.html>

〔副読本の活用例〕

○小学校3・4年「地震はいつ起こるか分からない」

いつ地震が起きても慌てないよう、どうすればよいかを考える学習を展開できます。



○小学校5・6年「震災後の生活」

災害直後にライフラインが止まったときに備え、準備しておくもの考える学習を展開できます。



「PTAと連携した学校施設・設備の安全点検」 村田町立村田第二中学校

村田町立村田第二中学校において、夏休みにPTA本部役員と連携した学校施設・設備の安全点検が実施されましたので、その取組を紹介します。

同校においては、当初、夏休みに親子奉仕作業と合わせて実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、奉仕作業は中止し、安全点検のみを実施した。

当日は、感染対策として、PTA会長・副会長・保体育成委員の11名と職員4名の少人数で点検。4グループに分かれて、「安全」、「防災」、「衛生」の3つの観点について点検表に記入しながら、50分程かけて校舎内外を回り、場所ごとに危険箇所や新型コロナウイルス対策などで気になったことを丁寧に洗い出し、点検後には、全員で点検結果の共有を行った。

「安全」、「防災」の観点では、

- ・生徒用イスの座面にザラつきがあり、ささくれ立ってとげが刺さる危険がある。
- ・図書室の本棚の固定が必要。空いている本棚の本は不安定なので下段に移動した方がよい。
- ・体育館倉庫に破損して使えない卓球台等があるので整理や廃棄が必要。
- ・中庭や校舎の雨樋の腐食が進んでいて、破損が心配な状態。
- ・校庭の元風力計の錆がひどく、倒壊すると危険。校舎外の壁にひびがある箇所が複数ある。
- ・一昨年の大雨で浸水した部分の地盤が沈下して、タイルの隆起、ひびや破損があり心配。
- ・教室の窓の外側にすずめ蜂の巣があったので駆除したほうがよい。

「衛生」の観点では、

- ・コロナ対策として教室にサーキュレーターを置き、換気しながらエアコンと併用するとよい。
 - ・生徒会室やコンピュータ室などの特別教室にもアルコール消毒のボトルを置いた方がよい。
- などの気付きが報告された。

同校の校長は、「教員による安全点検は毎月1回行い、危険箇所については町教委にも迅速に対応してもらっているが、今回、保護者の目線での指摘に新たな気付きをいただき感謝している。これを今後の学校安全に生かしていくことが学校の責務であると感じている。この結果は早速、職員会議で共有しており、再度教職員目線で確認した上で、町教委とも連携し、子どもたちが安全・安心な学校生活が送れるように、修繕や廃棄すべきものの処理などを適切に行っていきたい」と話していた。



↑ 保護者による安全点検の様子



↑ 点検は、校舎配置図と点検表により実施



↑ 点検実施後には、点検結果を共有